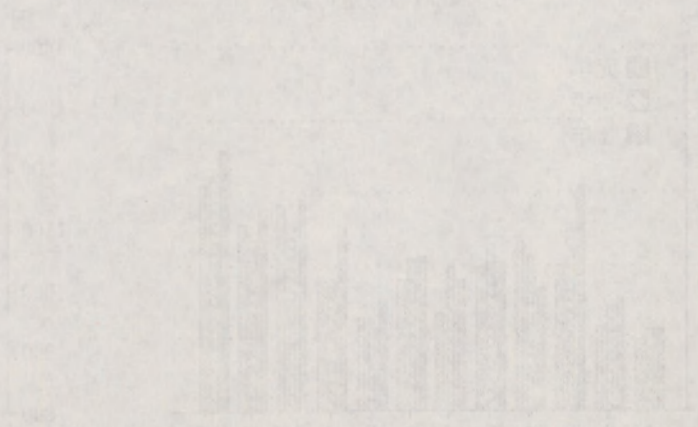


概

況



概況

1. 取扱高

(1) 年間取扱高

平成3年中(1月5日から12月30日、開市日数 279日)の総取扱数量は、832,532tで前年比98.3%と前年をやや下回り、総取扱金額は、826,251百万円で前年比97.9%と前年をやや下回った。総平均価格は、992円で前年に比べ4円高となった。取扱数量では、鮮魚類は、マアジやハマチが減少したが、サンマ、カツオ、マイワシなどが増加となり、全体では、4.6%増となった。冷凍魚類は、冷サケマス類が増加したが、消費低迷の冷エビ類が減少し、全体では、6%減となった。活魚類は、活ハマチ、活シマアジなどが減少したが、活アナゴ、活マタイが増加し、全体では、2.5%増となった。加工品類は、塩蔵品、焼物製品などが増加したが、塩干品が減少となり、全体では、わずかに減少となった。取扱金額では、鮮魚類は、2.7%増となった。活魚類は、2.2%減となった。貝類は、0.5%減少、冷凍魚類は、7.7%減少となった。淡水魚類は、5.3%増加、海藻類は、8.3%増加となった。加工品は、0.5%増加となった。平均価格では、鮮魚類は、1.8%安、活魚類は、4.6%安、貝類は、2.7%高、冷凍魚類は、1.8%安、淡水魚類は、1.5%安、海藻類は、9.9%高、加工品類は、1.8%高となった。

(ア) 生鮮品

鮮魚類の取扱数量は、181,416tで前年比104.6%とやや増加し、平均価格は、1,089円で前年比20円安となった。主要品目で見ると、サンマは、昨年も好漁が続ぎ、入荷は2.2割増となった。平均価格は、77円安となった。カツオは、これまで不漁が続いていたが昨年は豊漁となり、入荷も3割増となった。平均価格は、171円安となった。マイワシは、1.2割増となった。平均価格は、49円高となった。マグロ類は、メバチ(国内)が1.7割減となったが、キワダ(輸入)が3.9割増、メジが大幅増となり、全体では、1.4割増となった。平均価格は、271円安となった。スルメイカは、ほぼ前年並となった。平均価格は、17円安となった。マアジは、0.8割減となった。平均価格は、43円高となった。養殖ハマチは、1.3割減となり平均価格は、138円高となった。活魚類の取扱数量は、12,900tで、活カンパチ、活マタイなどが増加し、前年比102.5%となった。平均価格は、2,020円で97円安となった。貝類の取扱数量は、53,647tで前年比97.2%となった。平均価格は、1,000円で27円高となった。主要品目で見ると、アカ貝が0.4割減で16円安、アサリは微増で13円高、アワビは0.8割増で131円安、トリ貝は4.2割増で、875円安、アオヤギは、1.1割減で49

円安、ムキカキは、微増で171円高、ムキホタテ貝は、0.8割減で112円高。淡水魚類の取扱数量は、3,678tで前年比98.7%とわずかに減少し、平均価格は、1,405円で38円高となった。主要品目で見ると、アユがほぼ前年並で31円高となった。ウナギが0.5割減で174円高となった。

(イ) 冷凍品

冷凍魚類の取扱数量は、268,264tで前年比93.9%と減少し、平均価格は、1,053円で前年比19円安となった。主要品目で見ると、冷エビ類は、前年は順調に伸びたインドネシア物が2.1割減、タイ物が3.8割減となり、フィリピン物が1.6割増、オーストラリア物が3.9割増となった他は減少傾向となり、全体では、1.5割減となった。平均価格は、1,733円で前年比23円安となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが大幅増となり、全体では、0.8割増となった。平均価格は、829円で前年比86円安となった。冷イカ類は、0.6割減となった。平均価格は、588円で3円高となった。冷マグロ類は、冷ホンマグロが4.2割増、冷メバチが0.3割増となったが、冷キワダ、冷ビンナガ、冷インドがともに減少し、全体では、微増にとどまった。平均価格は、1,517円で前年比182円安となった。その他の冷凍魚類では、冷サバが輸入のノルウェー物が増加し、1.8割増となった。冷スリミは、スケソウダラが不漁で減少したため半減となった。平均価格は、243円高となった。冷凍貝類の取扱数量は、5,634tで前年比94.3%となった。平均価格は、1,555円で、前年比45円高となった。主要品目で見ると、冷ホタテ貝は、前年並で101円高となった。冷アワビは、0.9割減となり、609円安となった。冷凍淡水魚の取扱数量は、857tで前年比166.4%となった。平均価格は、835円で、119円安となった。主要品目で見ると、冷アユが7.2割増で、15円安となった。冷ワカサギは、2.4倍増となり、46円安となった。

(ウ) 加工品

加工品の取扱数量は、298,465tで、前年比98.6%とわずかに減少した。平均価格は、832円で前年比15円高となった。主要品目で見ると、焼物製品は、蒲焼きウナギが0.6割増となり、全体では、0.5割増となった。平均価格は、1,826円で83円高となった。塩干品は、開干アジが0.5割減となり、全体でも、0.5割減となった。平均価格は、563円となり28円高となった。塩蔵品は、塩アキサケが1.9割減、塩ギンサケが0.8割減となったが、塩シロサケが2.6割増、

図1-1 総取扱数量の動き

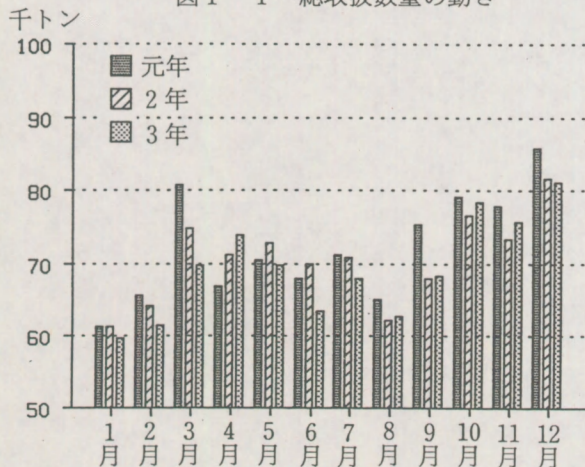


図1-2 総平均価格の動き

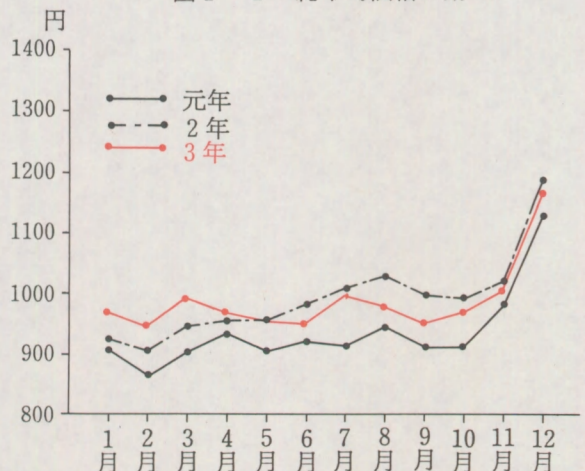


図2-1 鮮魚取扱数量の動き

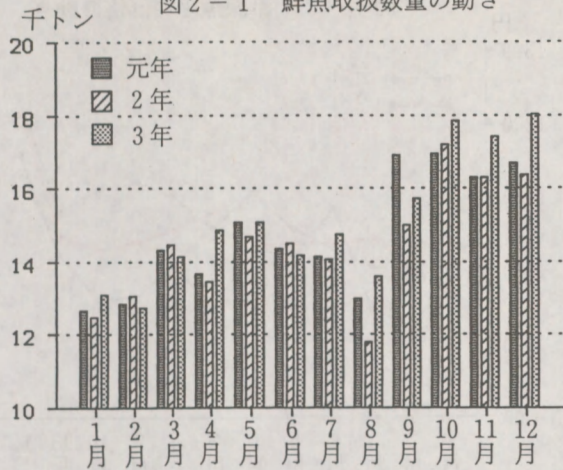
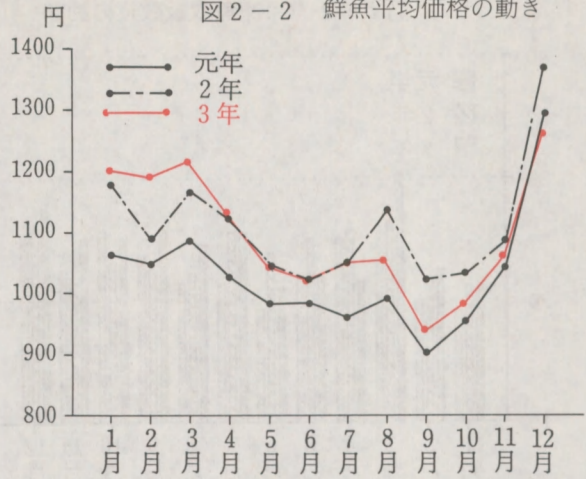


図2-2 鮮魚平均価格の動き



塩ペニサケが3.7割増となり、全体では、0.4割増となった。平均価格は、1,516円で、128円安となった。煮干製品は、煮干イワシが0.4割減となったが、コウナゴが4.6割増、シラス干が0.7割増となり、全体では、1.2割増となった。平均価格は、738円で102円高となった。

取扱数量では、冷マグロ類は、在庫豊富なキワダが2倍増、ビンナガ、インドなども増加となったが、主力のメバチが0.8割減となり、全体では、0.6割増となった。冷エビ類は、インドネシア物、タイ物が大幅に減少し、全体では、1.7割減となった。冷サケ・マス類は、ペニサケが増となったが、シロサケが大幅減少し、全体では、1.1割減となった。平均価格では、国内物・輸入物共に入荷減少となった冷イカ類は、1.4割高となった。入荷減少の冷タコは1.3割高となった。冷マグロ類は、大幅増のキワダが4.4割安、メバチは0.4割安となり、全体では、1割安となった。

(2) 月別取扱高

1月

- ☆鮮魚類 取扱数量 13,103t (対前年比 105.0%)
平均価格 1,197円 (" 19円高)
- 取扱数量では、マグロ(国内)は、小型主力に5割増となり、マグロ(輸入)は前年並となった。キワダ(国内)は、1.7割増、キワダ(輸入)は、2.6割増となった。ハマチは、3.7割増となった。サバは、全国的な不漁で3.5割減となった。平均価格では、大型物の少なかったマグロ(国内)は2倍高となった。入荷減少のサバも2倍高となった。入荷増のハマチは、1.7割安となった。
- ☆活魚類 取扱数量 977t (対前年比 102.2%)
平均価格 1,827円 (" 122円安)
- 取扱数量では、活シマアジが2.3割増、活マタイが5割増となった。活カンパチが1.7割減、活タコが0.6割減となった。平均価格では、活タコが4.3割高となった。活シマアジは、1.4割安、活マタイは、1.6割安となった。
- ☆貝類 取扱数量 4,863t (対前年比 97.0%)
平均価格 1,098円 (" 138円高)
- アサリ等が増加したが、ホタテ貝等が減少し、全体では減少となった。
- ☆冷凍魚類 取扱数量 19,053t (対前年比 90.4%)
平均価格 1,038円 (" 75円高)

- ☆加工品類 取扱数量 21,072t (対前年比 99.5%)
平均価格 714円 (" 20円高)

取扱数量では、焼物製品が1.4割増となった。切身加工品は、1.9割増となった。煮干製品は、煮干イワシとシラス干が減少し、全体では、1.1割減となった。平均価格では、煮干製品が2.6割高となり、素干品が1.1割高となった。塩蔵品は、1.5割安となった。

2月

- ☆鮮魚類 取扱数量 12,743t (対前年比 99.7%)
平均価格 1,186円 (" 100円高)
- 取扱数量では、マグロ(国内)は、3.6倍増となった。ハマチは、鹿児島、四国とも入荷順調で2.2割増となった。マイワシは、1.5割増となった。マグロ(輸入)は、湾岸戦争の煽りを受け、チュニジアからの搬入が減少し、5.4割減となった。サバは、極端な水揚げで入荷まともならず、4.2割減となった。平均価格では、サバが2倍高となった。

図3-1 貝類取扱数量の動き

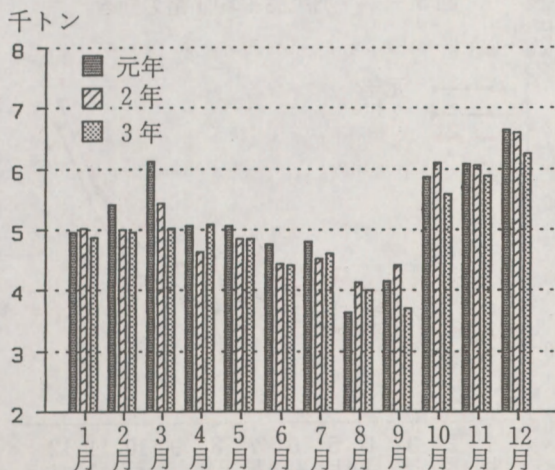


図3-2 貝類平均価格の動き

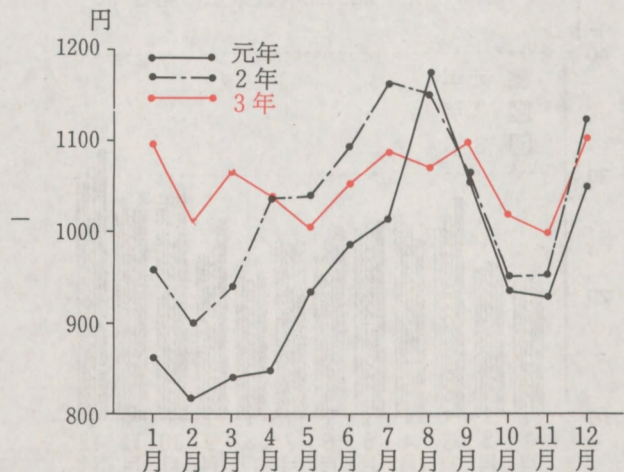


図4-1 冷凍魚取扱数量の動き

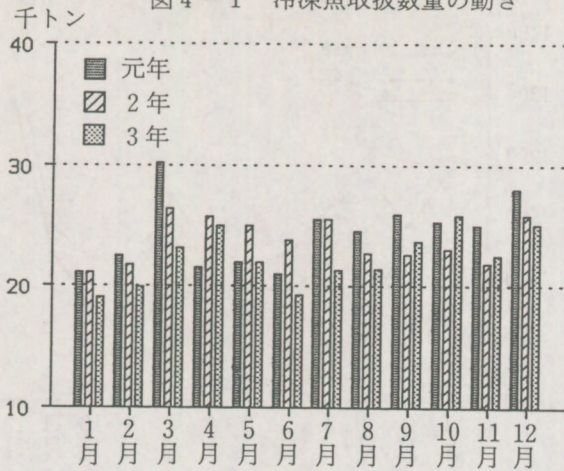
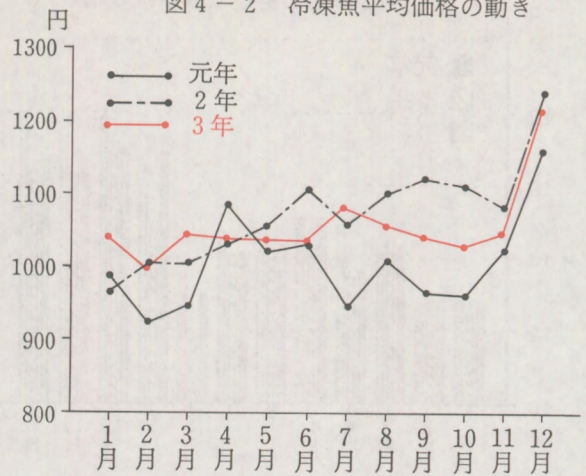


図4-2 冷凍魚平均価格の動き



マイワシは、2割高となった。

☆活魚類 取扱数量 932t (対前年比 104.1%)
平均価格 1,886円 (" 109円安)

取扱数量では、活カンパチが1.8割増、活マタイが5.3割増となった。活イカ類は、5割減となった。平均価格では、活イカ類が3.1割高となった。活カンパチは、3.1割安となった。活マタイは、2割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,963t (対前年比 99.3%)
平均価格 1,012円 (" 116円高)

シジミ、ハマグリなどが増加したが、ホタテ貝、アオヤギなどが減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 19,965t (対前年比 91.9%)
平均価格 992円 (" 12円安)

取扱数量では、冷タイ類は、マダイ、サクラタイが増加し、全体では、6.1割増となった。冷カニ類は、7.4割増となった。冷イカ類は、モンゴウイカが大幅減少し、全体では、1.6割減となった。冷エビ類は、フィリピン物だけは増加したが、主力のインドネシア、タイ物などが大幅減少し、全体では、2.7割減となった。冷サバは、ノルウェー物が大幅増となり、2.2倍増となった。冷タコは、2割増となった。平均価格では、冷イカ類は、モンゴウが1.1割高、スルメイカ(国内)が5.1割高などとなり、全体では、1.5割高となった。入荷増の冷タイ類は、2.9割安となった。

☆加工品類 取扱数量 22,102t (対前年比 97.4%)
平均価格 723円 (" 45円高)

取扱数量では、湯煮品は、主力の煮タコが0.4割増となり、全体でも、0.4割増となった。塩干品は、開干サンマが1.3割減、丸干イワシが1.1割減となり、全体では、1.1割減となった。平均価格では、塩干品が1.7割高、煮干

製品が2.6割高となった。

3月

☆鮮魚類 取扱数量 14,149t (対前年比 97.8%)
平均価格 1,210円 (" 44円高)

取扱数量では、キワダ(国内)は3割増、キワダ(輸入)は2割増となった。マタイは、養殖物が6.5割増となった。シロサケは9割増となった。マグロ(国内)は5.2割減となった。カツオは、0.9割減となった。マアジは、0.8割減となった。平均価格では、マグロ(輸入)が1.7割高となった。ハマチは、1割高となった。シロサケは、1.1割安となった。マキエビは、1.2割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,064t (対前年比 97.4%)
平均価格 2,162円 (" 43円高)

取扱数量では、活マタイが4割増となった。活タコが2.7割減となった。平均価格では、活マタイが1.7割安となった。活タコが4.5割高となった。

☆貝類 取扱数量 5,030t (対前年比 92.6%)
平均価格 1,067円 (" 129円高)

トリ貝が増加したが、ハマグリ、アカ貝などが減少し、全体では減少となった。

☆冷凍魚類 取扱数量 23,156t (対前年比 87.8%)
平均価格 1,041円 (" 40円高)

取扱数量では、冷マグロ類は、在庫豊富なキワダが2倍増となったが、主力のメバチが小幅減となり、全体では、ほぼ前年並となった。冷イカ類は、スルメイカ(国内)が1.5割減、SA物が4割減となり、全体では2.3割減となった。冷サケ・マス類は、シロサケが5割減、ベニサケは2

図5-1 加工品取扱数量の動き

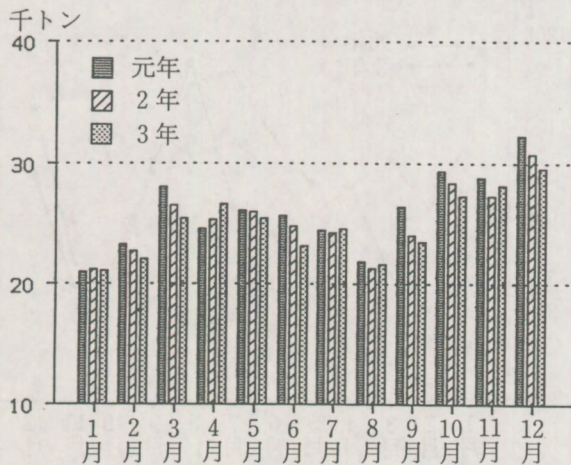
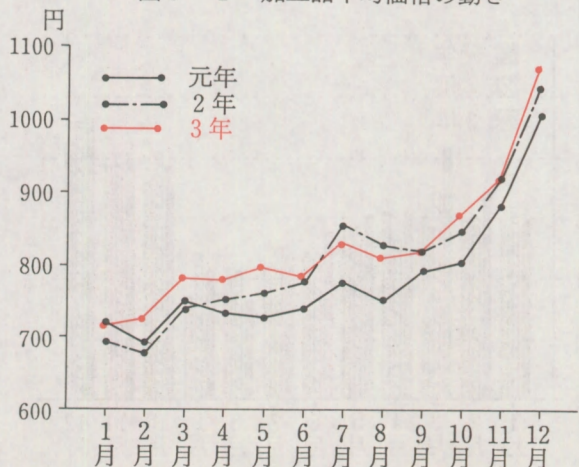


図5-2 加工品平均価格の動き



割増となったが、全体では、1.6割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、キワダが3.3割安、メバチが1.3割安となり、全体では1.2割安となった。冷サケ・マス類は、シロサケが1.3割安、ベニサケが1.5割安となったが、全体では小幅安となった。

☆加工品類 取扱数量 25,389t (対前年比 95.8%)
平均価格 782円 (" 41円高)

取扱数量では、煮干製品は、煮干イワシが1.4割増となり、全体では、2.5割増となった。素干品は、干スルメが4.5割減となり、全体では、2.8割減となった。平均価格では、素干品は、干スルメが2割高となり、全体では、1.1割高となった。煮干製品は、小幅高となった。

4月

☆鮮魚類 取扱数量 14,861t (対前年比 110.5%)
平均価格 1,123円 (" 4円高)

取扱数量では、マグロ(国内)は、1.3割増となった。キワダ(国内)は、4.3割増となった。キワダ(輸入)は、1割増となった。カツオは、2.8割増となった。マイワシは、2割増となった。スルメイカは、1.3割減となった。ヤリイカは、1.5割減となった。平均価格では、スルメイカは、1.9割高となった。ヤリイカは、1.9割高となった。マグロ(国内)は、1割安となった。キワダ(国内)も1割安となった。カツオは、1.5割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,119t (対前年比 110.1%)
平均価格 2,047円 (" 75円安)

取扱数量では、活アナゴが1.7割増、活マタイが5.1割増となった。活カレイは、2.4割減となった。平均価格では、活タコが3割高となった。活アナゴは、0.6割安となった。活マタイは、1.3割安となった。

☆貝類 取扱数量 5,088t (対前年比 110.0%)
平均価格 1,040円 (" 6円高)

ハマグリ、ホタテ貝などが減少したが、アサリ、シジミ、アカ貝などが増加し、全体では、増加となった。

☆冷凍魚類 取扱数量 24,958t (対前年比 97.1%)
平均価格 1,036円 (" 8円高)

取扱数量では、冷マグロ類は、キワダが4.7割増、メバチが0.8割増となり、全体では、1.8割増となった。冷タイ類は、1.7割増となった。冷サケ・マス類は、シロサケが半減したが、ベニサケが2.2割増となり、全体では、1.8割増となった。冷イカ類は、スルメイカ(国内)が6割減、スルメイカ(SA)が1.4割減となり、全体では、2.8割減となった。平均価格では、冷イカ類は、1割高となった。冷マグロ類は、1.3割安となった。

☆加工品類 取扱数量 26,629t (対前年比 105.0%)
平均価格 779円 (" 28円高)

取扱数量では、塩蔵品類は、アキサケ、シロサケ、ベニサケ、ともに増加し、全体では、1.6割増となった。煮干製品は、煮干イワシが4.6割増となり、全体では、4.2割増となった。平均価格では、塩干品が1割高となった。塩蔵品は、0.7割安となった。入荷増となった煮干製品は、1.1割安となった。

5月

☆鮮魚類 取扱数量 15,064t (対前年比 102.5%)
平均価格 1,040円 (" 5円安)

取扱数量では、マグロ(輸入)は、4.9割増となったが、マグロ(国内)は、0.3割増となった。カツオは、水揚げ順調で、2.8割増となった。マイワシは、2.6割増となった。ハマチは、産地の放棄尾数が激減し、1.1割減となった。スルメイカは、3.6割減となった。平均価格では、入荷減少のハマチが2.1割高となった。マアジは、1.5割高となった。マグロ(輸入)は、1.8割安となった。カツオは、1.1割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,129t (対前年比 101.3%)
平均価格 1,961円 (" 50円安)

取扱数量では、活クロタイが2.9割増、活スズキが1.7

割増となった。活カレイは、3.2割減となった。活ハマチは、1.3割減となった。平均価格では、活カレイが2.1割高、活ハマチが0.3割高となった。活クロタイは、2.1割安、活スズキが1.5割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,850t (対前年比 100.2%)
平均価格 1,004円 (" 34円安)

アサリ、アオヤギが増加したが、ハマグリ、アカ貝が減少し、全体では、ほぼ前年並となった。

☆冷凍魚類 取扱数量 21,937t (対前年比 87.7%)
平均価格 1,035円 (" 18円安)

取扱数量では、冷マグロ類は、出回り豊富なキワダが1.4割増、主力のメバチも0.8割増となり、全体では、0.9割増となった。冷カニ類は、1.4割増となった。冷イカ類は、日本海産船凍イカが仮需要の後退から大幅に減少し、全体では、1.6割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、1.7割安となった。冷イカ類も、1.7割安となった。冷カニ類は、1.6割安となった。

☆加工品類 取扱数量 25,425t (対前年比 97.7%)
平均価格 794円 (" 34円高)

取扱数量では、煮干製品は、シラス干が3.6割増となり、全体では、1.7割増となった。素干品は、干スルメが2割増となり、全体では、3.5割増となった。塩干品は、開干アジが1.1割減となり、全体では、1割減となった。平均価格では、塩干品が1.4割高となった。素干品は、1.2割安となった。

6月

☆鮮魚類 取扱数量 14,156t (対前年比 97.7%)
平均価格 1,015円 (" 6円安)

取扱数量では、マグロ(国内)は、三陸沖巻網漁が低調で3.4割減となった。マグロ(輸入)は、入荷順調で2割増となった。カツオは、6月に入って漁が上向き、入荷は1.8割増となった。マアジは、九州西方が盛漁期だがまとまった漁なく、山陰沿岸も同様で、入荷は、1.7割減となった。平均価格では、入荷減少のハマチが3.5割高となった。マアジは、1割高となった。マグロ(輸入)は、1.7割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,082t (対前年比 94.2%)
平均価格 2,096円 (" 3円高)

取扱数量では、活カンパチが7.3割増となった。活ハマチが2.7割減となった。平均価格では、活ハマチが0.9割高、活カンパチが3.3割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,428t (対前年比 99.8%)
平均価格 1,053円 (" 39円安)

アサリ、ホタテ貝が増えたが、ハマグリ、アカ貝が減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 19,278t (対前年比 81.0%)
平均価格 1,034円 (" 70円安)

取扱数量では、冷イカ類が好調で、スルメ(国内)が3.4割増、モンゴウが7割増となり、全体では、4.2割増となった。冷サケ・マス類は、シロサケ、ベニサケともに大幅減となり、全体では、4.5割減となった。冷エビ類は、タイ物が大幅減少となり、全体では、3.9割減となった。平均価格では、冷カジキ類が3.8割高となった。冷イカ類は、スルメ(国内)が1.4割安、大幅増のスルメ(NZ)が5.6割安、モンゴウが2.5割安となり、全体では、2.2割安となった。

☆加工品類 取扱数量 23,164t (対前年比 93.4%)
平均価格 782円 (" 5円高)

取扱数量では、素干品は、干スルメが5.8割増となり、全体では、2.5割増となった。塩蔵品は、塩シロサケが2.7割減となり、全体では、1.1割減となった。煮干製品は、煮干イワシが大幅減となり、全体では、1割減となった。平均価格では、練製品が2.1割高となった。塩蔵品は、1.1割安となった。素干品は、1.7割安となった。

7月

☆鮮魚類 取扱数量 14,765t (対前年比 104.8%)
平均価格 1,045円 (" 4円安)

取扱数量では、マグロ(国内)は、三陸沖が好漁で約2倍増となった。カツオも日本近海が好漁で、4.7割増となった。マイワシは、1.5割増となった。マグロ(輸入)は、3.9割減となった。マアジは、水揚げすくなく1.7割減となった。ハマチは、産地出荷量が少なく、3.3割減となった。平均価格では、ハマチが4.1割高となった。マアジが2.5割高となった。マグロ(国内)は、3.3割安となった。カツオも3.3割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,194t (対前年比 103.3%)
平均価格 2,100円 (" 150円安)

取扱数量では、活カンパチが7.4割増、活スズキが3.6割増となった。活シマアジが2割減、活ハマチも2割減となった。平均価格では、活シマアジが0.8割高、活ハマチが1割高となった。活カンパチが3.5割安、活スズキが1.6割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,615t (対前年比 102.1%)
平均価格 1,088円 (" 74円安)

ウミタケなどが減少したが、アサリ、ホタテ貝などが増加した。

☆冷凍魚類 取扱数量 21,380t (対前年比 83.6%)
平均価格 1,079円 (" 20円高)

取扱数量では、冷マグロ類は、キワダが2.1割減となったが、主力のメバチが2割増となり、全体では、1.7割増となった。冷カニ類は、1割増となった。冷エビ類は、タイ物が半減するなどし、全体では、2.4割減となった。冷カレイ類は、4割減となった。平均価格では、冷タイ類が入荷減少し1.3割高となった。冷マグロはメバチが2.7割安となり、全体では、1.9割安となった。冷カニ類は、1.7割安となった。

☆加工品類 取扱数量 24,616t (対前年比 101.4%)
平均価格 832円 (" 22円安)

取扱数量では、素干品は、干スルメが6.3割増となり、全体では、4.4割増となった。練製品は、チクワ、カマボコともに減少し、全体では、0.7割減となった。平均価格では、素干品が、干スルメが3割安となり、全体では、2.1割安となった。練製品は、チクワが3.1割高、カマボコが1.9割高となり、全体では、2割高となった。

8月

☆鮮魚類 取扱数量 13,605t (対前年比 115.3%)
平均価格 1,050円 (" 85円安)

取扱数量では、カツオは、好漁で5.8割増となった。マイワシは、山陰近海等が好漁で4.5割増となった。スルメイカも日本海側、太平洋側ともに好漁で2割増となった。サンマは、昨年に続く豊漁で7.6割増となった。ハマチは、出荷減少し、3割減となった。平均価格では、ハマチが4.2割高となった。サバは、3割高となった。カツオは、3.2割安となった。スルメイカは、1.2割安となった。シロサケは、3割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,014t (対前年比 103.0%)
平均価格 2,054円 (" 243円安)

取扱数量では、活カンパチは3.5割増、活ヒラメは2.5割増となった。活シマアジは1.9割減、活ハマチは1.2割減となった。平均価格では、活シマアジが0.9割高、活ハマチが1.7割高となった。活カンパチが2.2割安、活ヒラメが2割安となった。

☆貝類 取扱数量 3,999t (対前年比 96.5%)
平均価格 1,070円 (" 81円安)

アサリ、シジミ、ホタテ貝などは増加したが、ハマグリ、アオヤギなどは減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 21,472t (対前年比 94.4%)
平均価格 1,053円 (" 46円安)

取扱数量では、冷カニ類は、冷煮ズワイガニが3.3割増となり、全体では、1.4割増となった。冷マグロ類は、キワダが1.9割減となったが、メバチが0.7割増となり、全

体では、0.7割増となった。冷イカ類は、スルメ(国内)が1割増、スルメ(SA)が1.8割増となったが、冷モンゴウが3.1割減となり、全体では、0.4割減となった。平均価格では、冷カレイ類が1割高となった。冷マグロ類は、1.7割安となった。冷イカ類は、0.6割安となった。

☆加工品類 取扱数量 21,625t (対前年比 101.2%)
平均価格 806円 (" 20円安)

取扱数量では、塩蔵品は、塩アキサケが3.5割増、塩シロサケが5.7割増となり、全体では、2.5割増となった。焼物製品は、1.4割減となった。平均価格では、塩蔵品は、塩アキサケが4割安、塩シロサケが4割安となり、全体では、2.3割安となった。

9月

☆鮮魚類 取扱数量 15,702t (対前年比 104.7%)
平均価格 932円 (" 89円安)

取扱数量では、下がりカツオが入荷順調で2.8割増となった。サンマは、2割増となった。不漁のマグロ(国内)は大幅な減少となった。マグロ(輸入)は0.7割増となった。ハマチは品薄で、3.4割減となった。平均価格では、マグロ(国内)が5割高となった。ハマチは、4.5割高となった。カツオは、2.7割安となった。入荷増のカレイ類は、1.4割安となった。サンマは、3.7割安となった。マアジは、1割安となった。

☆活魚類 取扱数量 903t (対前年比 101.9%)
平均価格 2,313円 (" 92円安)

取扱数量では、活カンパチが3.6割増、活アナゴが1.2割増となった。活シマアジは3割減、活ハマチは1.4割減となった。平均価格では、活シマアジは1.6割高、活ハマチは2.9割高となった。活カンパチは3割安、活アナゴは0.8割安となった。

☆貝類 取扱数量 3,710t (対前年比 84.0%)
平均価格 1,096円 (" 32円高)

コレラ事件で疑いを持たれたアオヤギが6.3割減、全体でも1.6割減少となった。

☆冷凍魚類 取扱数量 23,706t (対前年比 104.6%)
平均価格 1,037円 (" 81円安)

取扱数量では、冷サケ・マス類は、主力のベニサケが大幅増となり、全体では、3.5割増となった。冷カニ類は、煮ズワイガニが6.8割増となり、全体では、2.6割増となった。冷マグロ類は、キワダが5.5割減、インドは2.5割減となり、全体では、1.3割減となった。平均価格では、冷イカ類は、スルメ(国内)が3.8割高、スルメ(NZ)が3.5割高となり、全体では、0.9割高となった。冷サケ・マス類は、1.6割安、冷カニ類は、2.1割安となった。

☆加工品類 取扱数量 23,461t (対前年比 97.5%)
平均価格 816円 (" 1円安)

取扱数量では、煮干製品は、煮干イワシが5.6割増、シラス干が1.1割増となり、全体では、2.2割増となった。塩干品は、丸干イワシ、開干サバなどが減少し、全体では、1割減となった。焼物製品は、0.9割減となった。平均価格では、塩干品は、丸干イワシが4.4割高となり、全体では、1.2割高となった。煮干製品は、シラス干が2.1割安となり、全体では、1.9割安となった。

10月

☆鮮魚類 取扱数量 17,858t (対前年比 103.9%)
平均価格 980円 (" 53円安)

取扱数量では、マグロ(国内)は、4.3割増となった。カツオは、3.6割増となった。スルメイカは、北海道、三陸沖で豊漁、入荷は2割増となった。サバは、各地とも水揚げ少なく、入荷は、3.5割減となった。マグロ(輸入)は1.1割減となった。ハマチは、2.5割減となった。平均価格では、ハマチは、2.4割高となった。サバは、4.7割高となった。マグロ(国内)は、1.9割安となった。カツオは、3.4割安となった。スルメイカは、1.7割安となった。

- ☆活魚類 取扱数量 1,012t (対前年比 100.1%)
平均価格 2,135円 (" 129円安)
- 取扱数量では、活カンパチが 4.6割増となった。活ヒラメが 4.7割増となった。活シマアジは、4.1割減、活ハマチが 1.4割減となった。平均価格では、活シマアジは 2.6割高、活ハマチは 1.5割高となった。活カンパチは、2.5割安、活ヒラメは 2.7割安となった。
- ☆貝類 取扱数量 5,588t (対前年比 91.5%)
平均価格 1,019円 (" 69円高)
- ホタテ貝、アワビなどが増えたが、ハマグリ、アオヤギなどが大幅減少し、全体では減少となった。
- ☆冷凍魚類 取扱数量 25,816t (対前年比 111.8%)
平均価格 1,024円 (" 85円安)
- 取扱数量では、冷イカ類は、全般に入荷増となり、全体では、4割増となった。冷カレイ類は、1.1割増となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが 2.7倍増となり、全体では、7.7割増となった。冷マグロ類は、主力のメバチは 0.7割増となったが、キワダ、ビンナガなどが半減し、全体では、1.2割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、メバチが 2.1割安となり、全体では、0.5割安となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが 1.5割安となり、全体では、0.6割安となった。
- ☆加工品類 取扱数量 27,308t (対前年比 96.5%)
平均価格 866円 (" 20円高)
- 取扱数量では、切身加工品は、サバの切身が 4.5割増となり、全体では、2.5割増となった。塩蔵品は、アキサケが 2.7割減となり、全体では、小幅減となった。平均価格では、塩蔵品も切身加工品も前年並となった。

11月

- ☆鮮魚類 取扱数量 17,394t (対前年比 106.7%)
平均価格 1,051円 (" 31円安)
- 取扱数量では、対馬のメジ漁が過去に例のない豊漁で、入荷も 4.8倍増となった。アジは、九州、山陰の漁が好調で、入荷は、0.5割増となった。メバチは、国内物、輸入物ともに大幅減となった。平均価格では、サバは、1.6割高となった。ハマチは、3割高となった。メジは、4.7割安となった。入荷増のカツオは、4.1割安となった。サンマは、3.5割安となった。
- ☆活魚類 取扱数量 1,093t (対前年比 109.6%)
平均価格 1,831円 (" 165円安)
- 取扱数量では、活カンパチが 4.4割増、活ヒラメが 4割増となった。活シマアジが 2.3割減、活ハマチが 0.7割減となった。平均価格では、活シマアジが 2.5割高、活ハマチが 1.3割高となった。活カンパチが 2.2割安、活ヒラメが 2.3割安となった。
- ☆貝類 取扱数量 5,888t (対前年比 97.2%)
平均価格 999円 (" 48円高)
- シジミ、ホタテ貝などが増加したが、ハマグリ、アオヤギなどが減少し、全体では減少した。
- ☆冷凍魚類 取扱数量 22,480t (対前年比 102.6%)
平均価格 1,041円 (" 37円安)
- 取扱数量では、冷カレイ類は、主力のアサバカレイが 5.9割増となり、全体では、5.5割増となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが 5割増、シロサケが 0.8割増となり、全体では、7割増となった。冷エビ類は、0.5割減となった。平均価格では、冷イカ類は、1割高となった。冷タイ類は、1.6割高となった。冷カレイ類は、2.3割安となった。冷サケ・マス類は、シロサケが 1.9割安、ベニサケが 0.8割安となり、全体では、2割安となった。
- ☆加工品類 取扱数量 28,113t (対前年比 103.0%)
平均価格 923円 (" 2円高)
- 取扱数量では、塩蔵品は、塩アキサケが 3割増となり、全体では、1.5割増となった。煮干製品は、煮干イワシが 2.1割増となり、全体では、1.6割増となった。平均価格では、煮干品は、0.7割高となった。塩蔵品は、塩シロサケが 1.3割安となり、全体では、0.7割安となった。

12月

- ☆鮮魚類 取扱数量 18,015t (対前年比 110.0%)
平均価格 1,260円 (" 111円安)
- 取扱数量では、マグロ(国内)は 1割増となった。サバは、九州、山陰で好漁となり、入荷増となった。メジは大幅な入荷増となった。マグロ(輸入)は、2割減となった。カツオは、5.3割減となった。シロサケは、1.9割高となった。マグロ(国内)は、2.5割安となった。大幅増のメジは、4.3割安となった。サバは、2.2割安となった。
- ☆活魚類 取扱数量 1,381t (対前年比 104.2%)
平均価格 1,880円 (" 81円安)
- 取扱数量では、活カンパチが 4.7割増、活ヒラメが 2.1割増となった。活シマアジが 2.7割減、活ハマチが 1.2割増となった。平均価格では、活シマアジが 1.9割高、活ハマチが 2割高となった。活カンパチが 1.3割安、活ヒラメが 1.2割安となった。
- ☆貝類 取扱数量 6,257t (対前年比 94.7%)
平均価格 1,102円 (" 20円安)
- アカ貝、ホタテ貝などが増えたが、アサリ、シジミ、ハマグリなどが減少し、全体では、減少となった。
- ☆冷凍魚類 取扱数量 25,062t (対前年比 96.9%)
平均価格 1,210円 (" 24円安)
- 取扱数量では、冷イカ類は、スルメ(国内)が 1.4割増スルメ(SA)が 1.1割増となり、全体では、0.4割増となった。冷サケ・マス類は、シロサケが 1.7割増、ベニサケが 0.8割増となり、全体では、1.2割増となった。冷マグロ類は、キワダ、ビンナガが大幅減少となったが、主力のメバチは微増となり、全体では、0.4割減となった。平均価格では、冷イカ類は、スルメ(SA)が 1.4割安となったが、スルメ(国内)が 0.3割高となり、全体では、0.5割高となった。
- ☆加工品類 取扱数量 29,560t (対前年比 96.2%)
平均価格 1,077円 (" 28円高)
- 取扱数量では、煮干製品は、煮干イワシが 5割増となり、全体では、3割増となった。焼物製品は、1.5割増となった。練製品は、0.4割減となった。平均価格では、練製品が 1.1割高となった。煮干製品は、3.2割安となった。

2. 主要品目の取扱高

(1) マグロ類

3年の生鮮マグロ類の入荷量は、主力のメバチ(国内)が 1.7割減、メバチ(輸入)はわずかに減少、キワダ(国内)は、0.7割減となったが、キワダ(輸入)は、3.9割増、マグロ(輸入)は前年並となり、マグロ(国内)は 1.6割増となった。また、メジが大豊漁となり入荷も大幅増加となった。全体では、1.4割増となった。平均価格では、メバチ(国内)が 110円高、キワダは、国内・輸入物ともにほぼ前年並となり、大幅増のメジは、451円安となった。全体では、271円安となった。冷凍マグロ類は、冷ホンマグロは、4.2割増となったが、冷キワダが 2割減となった。冷メバチは、やや増加となり、全体では、ほぼ前年並となった。平均価格では、冷ホンマグロが 195円安、冷キワダが 4円安、冷メバチが 236円安となり、全体では、182円安となった。

(2) マアジ

1年おきに好・不調を繰り返しているマアジだが、3年は水揚げ少なく、入荷も 0.8割減となった。平均価格は、638円で 43円高となった。

(3) サバ

前年大きく落ち込んだサバだが、3年も相変わらずの不漁で入荷はさらに減少し、1.5割減となった。平均価格は、598円で 168円高となった。

(4) イワシ

マイワシの3年の51漁港水揚量は、前年比 82%と不調だったが、入荷は多産地からの集荷により絶対量不足を解消し、1.2割増となった。平均価格は 270円で、前年に比べ大型主体となったため、49円高となった。

(5) カツオ

カツオは、1～3月は漁不振だったが、4月以降漁獲が上向き、入荷も3割増となった。平均価格は、612円で171円安となった。

(6) サンマ

好漁が続いているサンマは、3年も前年並の漁となり、魚体は大型主体となった。平均価格は、352円で77円安となった。

(7) スルメイカ

生鮮物は、年の前半振るわなかったが、後半は増加に転じたため、年間では、ほぼ前年並となった。平均価格は、557円で17円安となった。冷凍物は、輸入物が増加となったが国内物は減少となり、全体では、1.1割減となった。平均価格は、国内物が53円高となったが、NZが69円安、SAが36円安となり、全体では、ほぼ前年並となった。

(8) 養殖ハマチ

前年過剰生産ぎみだったハマチは、3年はエサ代の値上りや、天然物の増加などの影響から、生産が縮小され、入荷も1.3割減となった。平均価格は、近年大幅な高下を繰り返しているところだが、3年は352円で77円安となった。

(9) サケ・マス類

生鮮サケ・マス類は、シロサケが0.5割増、ギンサケが1割増、輸入物が1.1割増など、すべての品目が増加となり、全体では、0.8割増となった。平均価格では、シロサケが18円安、ギンサケが128円安、輸入物が165円安となり、全体では、76円安となった。冷凍サケ・マス類は、冷シロサケが5割減となったが、冷ベニサケが4.4割増となり、全体では、0.8割増となった。平均価格では、冷シロサケが57円安、冷ベニサケが216円安となり、全体では、86円安となった。

(10) 魚卵

スジコは、2.2割増で261円安、イクラは、1.6割増で961円安、スケコは、1.2割増で223円高となった。

(11) エビ類

生鮮エビ類は、イセエビ(国内)が1.4割減、アカエビが1割減となったが、クルマエビ(国内)が1.6割増、クルマエビ(輸入)が3.9割増となり、全体では、ほぼ前年並となった。平均価格では、イセエビ(国内)が750円高、アカエビが14円高、クルマエビ(国内)が752円安、クルマエビ(輸入)が440円安となり、全体では、178円安となった。消費低迷の冷凍エビ類は、タイ物が3.8割減となり、全体では、1.5割減となった。平均価格では、入荷減少のタイ物が218円安となり、全体では、23円安となった。

(12) 加工品類

カマボコは、0.7割減となり、平均価格は、73円高となった。開干アジは、0.5割減となり、28円安となった。塩アキサケは、1.6割減となり、40円安となった。加工品全体では入荷はわずかに減少し、平均価格はほぼ前年並となった。

3. 市場別取扱高

(1) 築地市場

総取扱高は、725,178tで前年比97%と減少(32,177t減)し、総取扱金額は、729,761百万円で前年比97%と減少(25,243百万円減)した。類別を見ると、鮮魚類の取扱数量は155,834t(4,543t減)で前年比103%となり、取扱金額は、175,835百万円(2,109百万円増)で前年比101%となった。活魚類の取扱数量は、11,749t(209t増)で前年比102%となり、取扱金額は、24,158百万円(750百万円減)で前年比97%となった。冷凍魚類の取扱数量は、230,441t(19,045t減)で前年比92%となり、取扱金額は、249,585百万円(24,450百万円減)で前年比91%となった。加工品類の取扱数量は、264,583t(5,622t減)で前年比98%となり、取扱金額は、216,332百万円(1,676百万円減)で前年比99%となった。貝類の取扱数量は、51,946t(2,358t減)で前年比96%となり、取扱金額は、55,767百万円(145百万円減)で前年比99%となった。淡水魚類の取扱数量は、3,975t(233t増)で前年比106%

となり、取扱金額は、5,169百万円(194百万円増)で前年比104%となった。海藻類の取扱数量は、6,650t(137t減)で前年比98%となり、取扱金額は、2,916百万円(187百万円増)で前年比107%となった。

(2) 足立市場

総取扱高は、66,833tで前年比101%とわずかに増加(325t増)し、総取扱金額は、59,949百万円で前年比104%となった。類別を見ると、鮮魚類の取扱数量は15,108t(547t増)で前年比104%となり、取扱金額は、12,739百万円(646百万円増)で前年比105%となった。活魚類の取扱数量は、792t(65t増)で前年比109%となり、取扱金額は、1,085百万円(59百万円増)で前年比106%となった。冷凍魚類の取扱数量は、19,221t(33t増)でほぼ前年並となり、取扱金額は、16,987百万円(305百万円増)で前年比102%となった。加工品類の取扱数量は、25,043t(190t減)で前年比99%となり、取扱金額は、23,435百万円(885百万円増)で前年比104%となった。貝類の取扱数量は、5,582t(48t減)で前年比99%となり、取扱金額は、4,876百万円(82百万円増)で前年比102%となった。淡水魚類の取扱数量は、388t(9t増)で前年比102%となり、取扱金額は、479百万円(25百万円増)で前年比105%となった。海藻類の取扱数量は、700t(84t減)で前年比89%となり、取扱金額は、349百万円(20百万円増)で前年比106%となった。

(3) 大田市場

総取扱高は、40,521tで前年比116%と増加(7,065t増)し、総取扱金額は、36,540百万円で前年比119%と増加(5,777百万円増)した。類別を見ると、鮮魚類の取扱数量は10,474t(2,939t増)で前年比139%となり、取扱金額は、8,912百万円(2,457百万円増)で前年比138%となった。活魚類の取扱数量は、359t(43t増)で前年比114%となり、取扱金額は、809百万円(108百万円増)で前年比115%となった。冷凍魚類の取扱数量は、18,602t(1,719t増)で前年比119%となり、取扱金額は、16,027百万円(571百万円増)で前年比104%となった。加工品類の取扱数量は、8,839t(1,708t増)で前年比124%となり、取扱金額は、8,660百万円(2,067百万円増)で前年比131%となった。貝類の取扱数量は、1,752t(491t増)で前年比139%となり、取扱金額は、1,754百万円(440百万円増)で前年比134%となった。淡水魚類の取扱数量は、172t(58t増)で前年比142%となり、取扱金額は、237百万円(79百万円増)で前年比150%となった。海藻類の取扱数量は、322t(115t増)で前年比155%となり、取扱金額は、141百万円(55百万円増)で前年比163%となった。

4. 卸売業者別取扱高

(1) 築地市場

① 大都魚類(株)

総取扱数量は、138,199tで前年比93%と減少し、総取扱金額は、140,339百万円で前年比97%と減少した。類別には、数量で鮮魚類が、5%増加(1,501t増)、淡水魚は2%減少(15t減)、主力の冷凍魚類が、16%減少(10,396t減)、加工品類は2%の減少(493t減)となった。金額では、鮮魚類が、4%増加(1,476百万円増)、貝類は前年並となった。冷凍魚類は、11%減少(6,464百万円減)となった。

② 中央魚類(株)

総取扱数量は、151,712tで前年比95%と減少し、総取扱金額は、174,253百万円で前年比94%と減少したが、昨年に続き取扱数量・金額ともにトップとなった。類別には、数量で鮮魚類は、3%増加(1,208t増)、冷凍魚類は、8%減少(5,905t減)し、加工品類も6%減少(1,935t減)となった。金額では、鮮魚類が、2%減少(911百万円減)し、主力の冷凍魚類も9%減少、加工品類は、8%減少(2,805百万円減)となった。

③ 東都水産(株)

総取扱数量は、150,037tでほぼ前年並となり、総取扱金

額は、162,576百万円で前年比98%とやや減少した。類別には、数量で鮮魚類が、3%増加(1,085t増)し、冷凍魚類も3%増加(2,074t増)、加工品類は5%減少した。海藻類は3%減少となった。金額では、鮮魚類が、2%増加(766百万円増)し、冷凍魚類は、3%減少(2,274百万円減)となった。

(1) 築地市場

④ 築地魚市場(株)

総取扱数量は、135,722tで前年比96%と減少し、総取扱金額は、129,500百万円で前年比94%と減少した。類別には、数量で冷凍魚類が、13%減少(5,365t減)となり、鮮魚類は、ほぼ前年並となった。加工品類も、前年並となった。金額では、鮮魚類が、ほぼ前年並となったが、冷凍魚類は、17%減少(8,156百万円減)し、加工品類は、ほぼ前年並となった。

⑤ 第一水産(株)

総取扱数量は、60,393tで前年比102%とわずかに増加し、総取扱金額は、60,917百万円でほぼ前年並となった。類別には、数量で鮮魚類が、2%増加(336t増)し、冷凍魚類は、4%増加(547t増)となり、海藻類も6%の増加となった。金額では、鮮魚類は、3%増加(448百万円増)し、加工品類、冷凍魚類ともにほぼ前年並となった。

⑥ 九千千代田水産(株)

総取扱数量は、72,387tで前年比98%とやや減少し、総取扱金額は、46,989百万円で前年比101%とほぼ前年並となった。加工品類の取扱としては、数量・金額ともに昨年に続きトップとなった。類別には、数量で加工品類が、2%減少(1,090t減)し、海藻類も、5%減少(82t減)となった。金額では、加工品類は、ほぼ前年並となったが、海藻類は、4%増加(19百万円増)となった。

⑦ 総合食品(株)

総取扱数量は、16,678tで前年並となり、総取扱金額は、15,187百万円でほぼ前年並となった。類別には、数量で加工品類は、前年並となったが、海藻類は、30%減少(16t減)となった。金額では、加工品類は、ほぼ前年並となったが、海藻類は、35%増加(9百万円増)となった。

(2) 足立市場

① 東京北魚(株)

総取扱数量は、25,195tでほぼ前年並となり、総取扱金額は、22,045百万円で前年比105%と増加した。類別には、数量で鮮魚類は、6%増加(248t増)、加工品は、4%減少(422t減)、海藻類も、4%減少(12t減)となり、淡水魚類は、22%増加(25t増)となった。金額では、鮮魚類は、2%増加(271百万円増)し、加工品類は、6%増加(525百万円増)となった。

② 大都魚類(株)千住支社

総取扱数量は、22,513tで前年比105%と増加し、総取扱金額は、19,751百万円で前年比107%と増加した。類別には、数量で鮮魚類は、2%増加(100t増)し、冷凍魚類は、19%増加(1,106t増)となり、加工品類は前年並となった。金額では、鮮魚類は、7%増加(264百万円増)し、冷凍魚類は、16%増加(804百万円増)し、海藻類は4%減少(3百万円減)となった。

③ 中央魚類(株)千住支社

総取扱数量は、19,124tで前年比95%と減少し、総取扱金額は、18,150百万円でほぼ前年並となった。類別には、数量で加工品類は、4%増加(217t増)し、冷凍魚類は、19%減少(1,386t減)となり、鮮魚類は、4%増加(199t増)、貝類は減少した。金額では、加工品類は、3%増加(186百万円増)し、鮮魚類は、7%増加(309百万円増)、冷凍魚類は、13%減少(846百万円減)となった。

(3) 大田市場

① 東京大田魚市場(株)

総取扱数量は、19,174tで前年並となり、総取扱金額は、18,469百万円で前年比115%と増加した。類別には、数量で鮮魚類は、36%増加(1,704t増)し、冷凍魚類は、2

%減少(385t減)、加工品類は、17%増加(784t増)となった。金額では、鮮魚類は、40%増加(1,586百万円増)し、冷凍魚類は6%減少(385百万円減)、加工品類は、26%増加(1,084百万円増)となった。

② (株)大田合水

総取扱数量は、21,347tで前年比126%と増加し、総取扱金額は、18,071百万円で前年比123%と増加した。類別には、数量で鮮魚類は、44%増加、冷凍魚類は、17%増加(1,235t増)、加工品類は、36%増加(923t増)となった。金額では、鮮魚類は、35%増加(871百万円増)、冷凍魚類は、11%増加(31百万円増)、加工品類は、40%増加(983百万円増)となった。

(4) 買付比率

全体の買付比率は、数量では、50.1%と前年を0.6%下回り、金額では、49.9%と前年を0.3%上回った。市場別に見ると、築地市場の買付比率は、数量では、49.3%と前年を0.7%下回り、金額では、48.5%と前年を0.6%下回った。足立市場の買付比率は、数量では、47.4%と前年を0.2%上回り、金額では、54.8%と前年を0.9%上回った。大田市場の買付比率は、数量では、69.0%と前年を2.5%下回り、金額では、70.4%と前年を1.7%下回った。卸売業者別に見ると、大都魚類は、数量では、47.5%と前年を3.4%下回り、金額では、45.1%と前年を0.4%下回った。中央魚類は、数量では、50.6%と前年を3.3%下回り金額では、49.4%と前年を2.5%下回った。東都水産は、数量では、52.3%と前年を1.8%上回り、金額では、51.6%と前年を1.4%上回った。築地魚市場は、数量では、36.4%と前年を0.9%下回り、金額では、36.5%と前年を1.7%下回った。第一水産は、数量では、37.1%と前年を0.7%下回り、金額では、42.2%と前年を0.1%下回った。九千千代田水産は、数量では、80.1%と前年を3.2%上回り、金額では、82.8%と前年を0.8%上回った。総合食品は、数量では、40.2%と前年を3.0%上回り、金額では、57.2%と前年を2.5%上回った。東京北魚は、数量では、44.6%と前年を1.2%上回り、金額では、57.0%と前年を1.7%上回った。大都魚類千住支社は、数量では、45.6%と前年を4.2%下回り、金額では、51.9%と前年を3.3%上回った。中央魚類千住支社は、数量では、53.3%と前年を4.9%下回り、金額では、55.4%と前年を2.0%下回った。東京大田魚市場は、数量では、64.2%と前年を0.2%上回り、金額では、69.9%と前年を0.9%上回った。大田合水は、数量では、73.2%と前年を5.7%下回り、金額では、70.9%と前年を4.7%上回った。

5. 出荷地別取扱高

(1) 総取扱高

都道府県別の取扱高数量のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位千葉・4位宮城・5位北海道・6位愛知・7位青森・8位三重・9位神奈川・10位福島と今年の7位と8位が入れ代わっただけだった。取扱高金額のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位北海道・4位千葉・5位宮城・6位神奈川・7位大阪・8位愛知・9位青森・10位岩手となった。

(2) 鮮魚取扱高

前年に続き東京が1位となり、以降2位宮城・3位千葉・4位北海道・5位長崎・6位三重・7位静岡・8位岩手・9位青森・10位鹿児島となった。

(3) 冷凍魚取扱高

ベニサケの増えた東京が前年に続き1位となった。2位静岡・3位宮城・4位青森・5位大阪・6位千葉・7位神奈川・8位北海道・9位愛知・10位岩手となった。

(4) 加工品取扱高

東京が前年に続き第1位となった。前年3位だった千葉が2位に上がり北海道は3位となった。4位は静岡、5位宮城・6位福島・7位愛知・8位三重・9位茨城・10位兵庫となった。

表1 年次別取扱高

(単位：トン・千円・%)

年次 区分	3年	2年	元年	63年	62年	61年	60年
総数量	832,532	847,319	867,538	882,040	889,831	865,060	852,094
前年比	98.3	97.7	98.4	99.1	102.9	101.5	99.6
総金額	826,250,552	843,694,370	813,943,824	791,664,123	774,701,487	737,241,220	735,484,513
前年比	97.9	103.7	102.8	102.2	105.1	100.2	100.9

表2-1 年次別魚種別取扱数量

(単位：トン・%)

年次 魚種	3年		2年		元年		63年		62年		61年		前年比					3/60
	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	3年	2年	元年	63年	62年	
総数	832,532	100.0	847,319	100.0	867,538	100.0	882,040	100.0	889,831	100.0	865,060	100.0	98.3	97.7	98.4	99.1	102.9	98
鮮魚	181,416	21.8	173,388	20.5	176,894	20.4	185,477	21.0	182,210	20.5	175,220	20.3	104.6	98.0	95.4	101.8	104.0	—
活魚	12,900	1.5	12,582	1.5	12,036	1.4	—	—	—	—	—	—	102.5	104.5	—	—	—	—
貝類	59,280	7.1	61,195	7.2	62,588	7.2	67,117	7.6	67,544	7.6	69,174	8.0	96.9	97.8	93.3	99.4	97.6	88
冷凍魚	268,264	32.2	285,557	33.7	292,752	33.7	305,479	34.6	319,140	35.9	305,931	35.4	93.9	97.5	95.8	95.7	104.3	93
鯨類	—	—	—	—	—	0.0	334	0.0	884	0.1	1,197	0.1	—	—	—	37.8	73.9	—
淡水魚	4,535	0.5	4,242	0.5	4,362	0.5	4,505	0.5	4,740	0.5	4,686	0.5	106.9	97.2	96.8	95.0	101.2	90
海藻類	7,672	0.9	7,779	0.9	7,221	0.8	7,758	0.9	7,074	0.8	7,159	0.8	98.6	107.7	93.1	109.7	98.8	108
加工品	298,465	35.9	302,575	35.7	311,685	35.9	311,370	35.3	308,239	34.6	301,693	34.9	98.6	97.1	100.1	101.0	102.2	98

表2-2 年次別魚種別取扱金額

(単位：百万円・%)

年次 魚種	3年		2年		元年		63年		62年		前年比					3/60
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	3年	2年	元年	63年	62年	
総数	826,251	100.0	843,694	100.0	813,944	100.0	791,664	100.0	774,701	100.0	97.9	103.7	102.8	102.2	105.1	112
鮮魚	197,486	23.9	192,274	22.8	182,021	22.4	188,661	23.8	180,410	23.3	102.7	105.6	96.5	104.6	13.0	—
活魚	26,053	3.2	26,635	3.2	24,421	3.0	—	—	—	—	97.8	109.1	—	—	—	—
貝類	62,397	7.6	62,731	7.4	59,326	7.3	54,657	6.9	53,436	6.9	99.5	105.7	108.5	102.3	112.0	133
冷凍魚	282,598	34.2	306,173	36.3	293,484	36.1	297,004	37.5	291,384	37.6	92.3	104.3	98.8	101.9	103.1	100
鯨類	—	—	—	—	—	—	928	0.1	1,993	0.3	—	—	—	46.6	94.5	—
淡水魚	5,885	0.7	5,587	0.7	5,751	0.7	5,451	0.7	6,201	0.8	105.3	97.1	105.5	87.9	103.4	89
海藻類	3,405	0.4	3,144	0.4	2,815	0.3	2,792	0.4	2,512	0.3	108.3	111.7	100.8	111.1	98.3	130
加工品	248,427	30.1	247,150	29.3	246,126	30.2	242,171	30.6	238,766	30.8	100.5	100.4	101.6	101.4	108.0	109

表 2 - 3 年次別魚種別平均価格

(単位：キロ当たり円・%)

年次 魚種	3 年		2 年		元 年		63 年		62 年		対 60 年 指 数				
	価 格	前年比	価 格	前年比	価 格	前年比	価 格	前年比	価 格	前年比	3 年	2 年	元年	63年	62年
総 数	992	99.6	996	106.2	938	104.5	898	103.1	871	102.2	115	115	109	104	101
鮮 魚	1,089	98.2	1,109	107.8	1,029	101.2	1,017	102.7	990	99.0	—	—	—	109	107
活 魚	2,020	95.4	2,117	104.3	2,029	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
貝 類	1,053	102.7	1,025	108.1	948	116.5	814	102.9	791	114.6	151	147	136	117	114
冷 凍 魚	1,053	98.2	1,072	106.9	1,003	103.2	972	106.5	913	98.8	108	110	103	100	94
鯨 類	—	—	—	—	—	—	2,776	123.1	2,255	128.0	—	—	—	202	164
淡 水 魚	1,297	98.5	1,317	99.9	1,318	108.9	1,210	92.5	1,308	102.2	99	100	100	92	100
海 藻 類	444	109.9	404	103.6	390	108.3	360	101.4	355	99.4	121	110	106	98	97
加 工 品	832	101.8	817	103.4	790	101.5	778	100.4	775	105.7	110	108	105	103	103

注 平成元年から活魚類を大分類とし、鯨類は削除、生鯨は鮮魚類へ、冷凍鯨は冷凍魚類へ区分した。

表 3 - 1 市場別・年次別取扱数量

(単位：トン・円)

市 場	年次 区分	3 年		2 年		元 年		63 年		62 年	
		数 量	構成比	数 量	構成比	数 量	構成比	数 量	構成比	数 量	構成比
総 数	数 量	832,532	100.0	847,319	100.0	867,538	100.0	882,040	100.0	889,831	100.0
	前 年 比	98.3		97.7		98.4		99.1		102.9	
築 地	数 量	725,178	87.1	747,355	88.2	781,739	90.1	804,095	91.2	814,995	91.8
	前 年 比	97		95.6		97.2		98.7		102.7	
足 立	数 量	66,833	8.0	66,508	7.8	72,052	8.3	69,740	7.9	67,176	7.4
	前 年 比	100.5		92.3		103.3		103.8		104.8	
大 田	数 量	40,521	4.9	33,456	3.9	13,748	1.6	8,205	0.9	7,660	0.8
	前 年 比	121.1		243.4		167.6		107.1		105.8	

表 3 - 2 市場別・年次別取扱金額

(単位：百万円・%)

市場	年次 区分	3 年		2 年		元 年		63 年		62 年	
		金額 前年比	構成比	金額 前年比	構成比	金額 前年比	構成比	金額 前年比	構成比	金額 前年比	構成比
総 数	金 額 前 年 比	826,251 97.9	100.0	843,694 103.7	100.0	813,944 102.8	100.0	791,664 102.2	100.0	774,701 105.1	100.0
築 地	金 額 前 年 比	729,761 96.7	88.3	755,004 101.7	89.5	742,239 101.9	91.2	728,171 101.9	92.0	714,538 105.1	92.2
足 立	金 額 前 年 比	59,949 103.5	7.3	57,927 99.9	6.9	58,006 104.2	7.1	55,685 105.2	7.0	52,920 105.6	6.8
大 田	金 額 前 年 比	36,540 118.8	4.4	30,763 224.6	3.6	13,699 175.4	1.7	7,808 107.8	1.0	7,243 104.4	0.9

注 平成元年9月18日に大森市場が廃止され、大田市場の水産物部が業務を開始。大森市場の取扱分は大田市場に含めて計上。